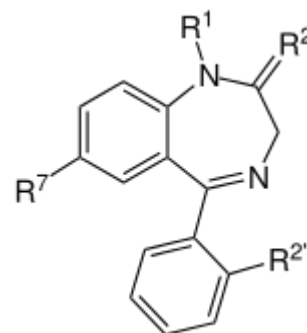


当院における催眠鎮静薬・ベンゾジアゼピン系抗不安薬について

5年前2017年4月の医薬品医療機器等安全情報 Np342 に“催眠鎮静薬、抗不安薬及び抗てんかん薬の依存性に係る注意事項について”と題し催眠鎮静薬、抗不安薬及び抗てんかん薬の適正使用が喚起されております。 (<https://www.pmda.go.jp/files/000217824.pdf#page=3>)

薬物依存症や肝機能障害等の有害事象の観点から世界的にも漫然使用しないこととされております。我が国日本においても同様であり、処方する側に診療報酬上いわゆる減算手法を用いて制限を設けることになっております。

この度あらためて、催眠鎮静薬、抗不安薬等の適正使用に取り組むこととし、本件について薬事審議委員会の承認、常勤・非常勤医師への提言を行い一部薬剤の採用中止を決定いたしました。以下詳細をお示しいたします。



1) フェノバルビタール散

本薬剤は依存性および薬物代謝酵素の誘導や肝障害が著しいこと、また大量服薬の場合には呼吸停止など致命的な副作用を有していることから、他薬剤への切り替え期間(3か月程度)を設け中止といたします。

2) ベンゾジアゼピン系薬剤

図1. に現在当院採用のベンゾジアゼピン系抗不安薬を提示します。2月から4月までの3か月間の使用量・頻度を調査したところ、中間型の抗不安薬の処方頻度が多いことが明らかとなりました。その中でも比較的使用量・頻度の少なかったソラナックス®錠の中止を決定いたしました。

また睡眠薬におきましては、新規患者さんにはデエビゴ®錠やベルソムラ®錠およびロゼレム®錠が選択肢として処方される機会が多くなっており、より安全に府民改善治療ができるようになってきています。そこでまずは代替え薬のあるゾピクロン(エナンチオマー薬剤であるルネスタへの置換が可能)、および処方頻度がほとんど無いユーロジン®錠・同散剤を中止といたしました。図2. が現在当院採用のベンゾジアゼピン系等睡眠薬の一覧です。

半減期分類	力価	商品名	剤形	規格 mg	等価換算	投与制限
短時間型 6h <	低	リーゼ	錠	5	10	30日
	高	デバス	錠	0.25	1.5	
			錠	0.5		
中間型 12~24	高	ロラゼパム錠「サワイ」	錠	0.5	1.2	30日
		ソラナックス	錠	0.4	0.8	
	中	レキソタン	錠	1	2.5	
			錠	5		
長時間型 24h >	中	セルシン	散	1%	5	90日
			錠	2		
			錠	5		
	高	セバゾン	錠	2	1.5	30日
			リボトリール	細粒	0.10%	0.25
錠	0.5					
錠	2					
超長時間型 90h >	高	メイラックス錠	錠	1	1.67	30日
その他	低	グランダキシン錠	錠	50	125	-

図1. 当院採用のベンゾジアゼピン系抗不安薬

半減期分類	商品名	剤形	規格 mg	等価換算	投与制限	
超短時間型	ゾピクロン	錠	7.5	7.5	30日	
	ハルシオン	錠	0.125	0.25		
		錠	0.25			
	マイスリー	錠	5	10		
	短時間型	ゾルピデムODフィルム「モチガ」	錠	10	10	-
		ルネスタ	錠	1	2.5	
錠			2			
錠	3					
短時間型	エバミール	錠	1	1	30日	
	リスミー	錠	2	2	-	
	プロテゾラム	OD錠	0.25	0.25	30日	
中間型	ベンザリン	錠	5	5	90日	
	ネルボン	散	1%	1	30日	
		錠	1			
	サイレース	錠	2	2		
	ユーロジン	錠	2	2		
錠	1%	15	15			
長時間型	クアゼパム	錠	20	15	90日	
バルピツール酸系	フェノバルピタール	散	1%	15	90日	

図2. 当院採用のベンゾジアゼピン系等睡眠薬

★編集後記

多くのベンゾジアゼピン系薬は日本の麻薬及び向精神薬取締法における第三種向精神薬に指定されている薬剤です。また習慣性医薬品に指定されているものもあり法的にも注意喚起されている薬剤群です。そのため、睡眠障害の改善の医薬品としては非ベンゾジアゼピン系が登場し、より安全な治療が行われております。

また、不安障害においても多くの抗うつ薬が第一選択とされており、世界的にもベンゾジアゼピン系薬の位置づけは低下しているのが現状です。

PMDA からの医薬品適正使用のお願い（医療従事者向け）：ベンゾジアゼピン受容体作動薬の依存性について <https://www.pmda.go.jp/files/000217046.pdf> もご覧いただくと薬剤の適正使用が推進されると思われま。

